

第3回 多摩市市制施行50周年記念誌作成準備委員会 要点記録

- 1 日時：平成29年7月12日（水）午後6時15分から午後7時30分
- 2 場所：多摩市役所3階 特別会議室
- 3 出席委員： 浜田委員長、保坂副委員長、松尾委員、市村委員、松井委員
- 4 議題：市制施行50周年記念誌の編集基本方針案の決定について

1 開会

委員長 第3回目の多摩市市制施行50周年記念誌作成準備委員会を開催する。

2 議題

委員長 本日の配布資料について、事務局より説明をお願いしたい。

資料1から3に基づき、事務局から内容について説明を行った。

何かご質問等はあるか。

副委員長 前回の多摩ニュータウン開発についての映像を観て、改めて映像が持つ力を感じた。これを文章で説明するのは難しいと思う。映像の迫力と説得力が必要である。特に多摩ニュータウンの開発は多摩市のエポックメイキングとなる。

委員長 映像化については、次の記念誌作成編集委員会（仮称）に送りしたいと思う。

委員 多摩市はニュータウン開発でできたまちとして有名であるが、歴史についても建物等が壊されずに残っている素晴らしいまちでもある。

旧多摩聖蹟記念館は、明治天皇の当地への行幸を記念して作られた施設で、明治維新で活躍し、その後宮内大臣を務めた田中光顕によって建設された。

このような歴史も市の財産になると思う。歴史と多摩ニュータウン開発の両方をしっかり描き、市民に誇りを持ってもらえたら良いと思う。

委員 多摩市の開発について、ブルドーザーで森林を壊していく映像を観たときは衝撃を受けた。一方で、旧多摩聖蹟記念館が残っていたり南多摩尾根幹線と乞田川の間には、谷戸が残っている。

記念誌の中に、昔と現在の地形等が一目で比較できるようなページがあったら面白いと思う。

委員 市民にとってわかりやすい内容にすべきだと思う。内容や構成は難しいと思うが、どの世代にも興味を持ってもらわないと手に取ってもらえないと思う。

今では、多摩ニュータウンの開発を知らない世代が多くなってきているので、多摩市の成り立ちを理解してもらえたら良いと思う。

委員長 多摩市は高度成長期のシンボルのようなまちなので、それが表現できたら良い。編集の基本方針においても重要な位置づけになると思う。ぜひ、デジタル映像化については、市としても考えていただきたい。

3 その他

事務局 これまで3回の委員会の中で議論し、決定した内容及び今後設置予定の記念誌作成編集委員会への送り内容等を委員長より市長へ報告いただきたい。

委員長 資料1及び3に基づき、報告を行った。

記念誌については報告の通りであるが、多摩市史刊行から20年が経ち、考古学的成果にも変更がある。また、近代史についても新しい資料の発掘が必要となってくる。さらに多摩ニュータウンの開発については、私たちの生活の変化とともに描く必要がある。

多摩ニュータウン開発の映像には委員全員が衝撃を受けた。また、多摩市の歴史も図録等をデジタル化することで、どの世代にもわかりやすく、理解のできる内容となると思うので、ぜひ映像化については今後、市として検討していただきたい。

内容については、教育機関で活用できるデザインや内容とするが、子どもに理解できる内容も含めることは、非常に難しいため、まずは教師が子どもたちに教えるために利用できるような教材として作成してはいかかがか。必要であれば、改めて子どもたちが活用できるような冊子を作成しても良いと思う。

最後に、これまでの議論の内容を基本に検討していただき、市制施行50周年までに間に合うように記念誌の編集を進めていただきたい。

市長

平成29年3月29日から3回に亘り、本委員会で議論を重ねていただいた。

歴史については、先ほど意見が出たように、田中光顕が建てた旧多摩聖蹟記念館がある。明治天皇の兎狩や鮎漁天覧の御幸のため、自然保護がされ、周辺地域に比べ自然が残る場所となった。天皇ゆかりの地であるためか、他では見られないユニークな文化があったのだと思う。昭和30年代に父親に連れられてよく多摩市を訪れていたが、他に建物がなかった当時は、旧多摩聖蹟記念館が背景の森林と合い綺麗に建っていた。

多摩市に欠かせない歴史として多摩ニュータウン開発があるが、当時の建設大臣河野一郎氏が空から見て開発場所を決めたといわれている。

多摩ニュータウンは丘陵地を一度まっさらにしてから作られた。開発によって豊かになった部分もあるが、当時の市民の誰もが幸せになったわけではない。

多摩ニュータウンの開発には、当時の市民のそれぞれの思いがある。大きな変化を遂げたこのまちがふるさとになるために、今でも残るよこやまの道や谷戸、そして多摩ニュータウンのシンボルである遊歩道など歴史から現在、そしてこれらの多摩を今の子どもたちにも受け入れてもらえるように工夫して作成する必要がある。

今の小学生は、授業でもタブレット活用している。デジタルやインターネット上で見られるよう仕組みが大切。また、書籍としてしっかり残すことも大切である。未来につながるようなものを市民の皆さんと一緒に作っていきたい。

事務局

3回に亘り、さまざまな意見をいただき、記念誌の編集基本方針を決定することが出来た。これをもって多摩市市制施行50周年記念誌作成準備委員会を終了する。

7 閉会